

# No.9 株式会社アクポニ (1/2)



## 循環型栽培システム「アクアポニックス」で都市併設型農業×水産業を実現、地域の雇用創出や脱炭素促進に貢献

### ■ 基本情報

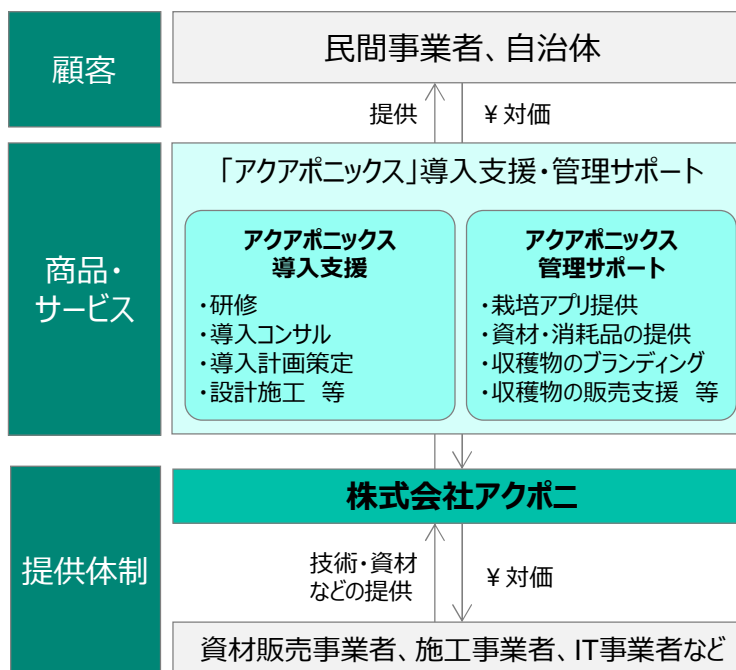
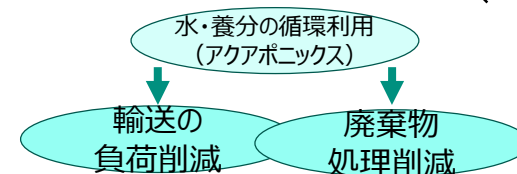
|       |          |
|-------|----------|
| 企業名   | 株式会社アクポニ |
| 本社所在地 | 神奈川県横浜市  |
| 設立年   | 2014年    |
| 従業員数  | 5名       |

### ■ 背景・課題

|                   |                                                                                                                                             |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域課題<br>・<br>企業課題 | <b>節水・省エネルギー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 養殖で使用した栄養豊富な水が活用されずに捨てられていた。</li> <li>✓ 肥料等の輸送・加工により、多くのエネルギーが消費されていた。</li> </ul> |
| 地域資源              | <b>多種多様な主体との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 飲食店への収穫物提供や教育機関での教材としての利用、障害者の就労など、様々な訴求ポイントで多くの主体と連携することに成功している。</li> </ul>    |
| 地域への貢献            | <b>地域の雇用創出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 民間企業がアクポニを活用した新規事業を実施することで、新たな雇用が創出される。</li> </ul>                                  |

### ■ 事業概要

- 株式会社アクポニ（以下、アクポニ）は、水産養殖と水耕栽培を掛け合わせた循環型栽培システム「アクアポニックス」の導入支援・管理サポートを実施している。
- 「アクアポニックス」の仕組みは、魚の養殖に使った水の「ろ過」・「微生物による分解」を通じて養分が豊富な水を、野菜の水耕栽培に利用し、栽培を通じてクリーンになった水を、魚の養殖に再利用することで水が循環するものである。
- 事業としては、「アクアポニックス」の導入支援・管理サポートのほかにも、導入企業向けの資材・消耗品の販売や、「アクアポニックスアカデミー」と呼ばれる研修の提供、自社のアクポニ農場経営を実施している。
- 「アクアポニックス」は、従来の地方における大規模型農業のみならず、都市併設型農業と相性がよいため、障害者施設や飲食店など多種多様な企業・施設に導入が進んでいる。それにより、導入企業では、雇用創出やエンタメの提供、新規事業創出に繋がっている。



出所) 株式会社アクポニ資料・インタビューより

# No.9 株式会社アクポニ（2／2）

## ■事業立上・推進期における取り組み内容

### 立上期

- ・ アクポニ創業者である濱田氏は、会社員として働く傍ら、ネット上で「アクアポニックス」という栽培手法と出会ったことをきっかけに、アクポニに関するブログの執筆やアクポニの自主の勉強会や顧客との取引などで出会った人たちが事業に参画製作に取組み、近くの幼稚園などへの紹介などを通じて反響を得るようになった。
- ・ その後、濱田氏は、アクアポニックスの技術をより深く学ぶために、勤めていた会社を辞めて起業。既にアクアポニックスが普及している米国で技術を習得した。
- ・ 起業当初の2年間は1人で事業立上を実施していたが、中央省庁するようになった。また、人材リソースの不足は、他社への一部業務の委託や協業を通じて対応した。

### 推進期

- ・ 「アクアポニックス」を用いて、具体的にどのような活動を実施できるかが分からない顧客に関しても、導入コンサルや協業パートナーの紹介を通じて、顧客ニーズを汲み取り運営体制を構築、案件化に至った。
- ・ アクアポニックスを導入した顧客が管理に手こずる場面が多く発生したため、導入検討企業に対して農場見学・講習受講への参加を必須とすることで、顧客の事業成功確率を向上させた。また、導入企業向けのアクポニ栽培アプリや資材・消耗品の提供などの管理業務サポートによって、生産物の品質保証も支援している。
- ・ また、環境管理や農場のIoT化にあたってIT関連事業者を協業パートナーとして巻き込むだけでなく、雇用創出を狙う自治体や新たな技術開発を目指す大学・研究機関との協業も積極的に進めることで、幅広い用途への展開を成功させている。

## ■取り組みにおける工夫

### ポイント 起業前からSNS等での発信して知名度獲得

起業前からブログの執筆を開始し、YoutubeなどのSNSも活用してビジョン・コンセプトを発信していた。起業後には講演やメディア出演の依頼を数多く受けた。それが事業立ち上げ期にコストをかけずに案件獲得・事業拡大することに成功した。

### ポイント 受注生産による在庫リスクの回避

アクアポニックスの本体機器や資材・消耗品等は自社で在庫として抱えるのではなく、取引先からの依頼に応じて都度調達を実施することで、在庫リスクを回避している。

### ポイント 協業先・取引先同士の連携も支援

民間企業のみならず、自治体や大学等の研究機関と協業することで、アクアポニックスの活用の幅が広がり、結果的に事業拡大に繋がった。また、協業先・取引先同士の連携も支援することで、幅広い活用先の開拓にも成功している。

## ■目指す将来像

### 海外展開も視野に、「都市併設型農業」の普及拡大を目指す

- ・ 国内におけるアクポニの認知度向上や有機認証の取得を通じて、アクポニ生産物の販売単価向上に努めることで、国内のアクポニ普及拡大を目指している。また、国内のみならず、既にアクポニが普及する米国への事業展開も進めている。
- ・ さらに、「地方大規模型農業」における既存農業の代替を進めるだけでなく、アクポニの都市部への導入を通じて、「都市併設型農業」の普及拡大を目指している。

